

2023年度第1回愛知県健康づくり推進協議会議事要約

【日時】2023年9月13日（水）午後1時から午後3時まで

【会場】愛知県庁本庁舎6階 正庁

【出席委員】17名

浅井委員（公益社団法人愛知県医師会副会長）、芦田委員（全国健康保険協会愛知支部支部長）、飯田委員（地方職員共済組合愛知県支部愛知三の丸クリニック院長）、五十里委員（名古屋学芸大学看護学部学部長）、池山委員（一般社団法人愛知県歯科医師会副会長）、石黒委員（愛知県市町村保健師協議会会長）、大藪委員（愛知県女性団体連盟監査）、川合委員（愛知県公立高等学校長会理事）、川邊委員（一般社団法人愛知県薬剤師会副会長）、櫻井委員（国立長寿医療研究センター研究所長）、嶋崎委員（愛知学院大学歯学部教授）、都築委員（愛知県小中学校長会会長）、成瀬委員（愛知県町村会・行財政部会長）、丹羽委員（愛知県がんセンター総長）、長谷川委員（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター院長）、丸山委員（愛知県保健所長会会長）、上原委員（公益社団法人愛知県栄養士会副会長）（代理出席）

【欠席委員】3名

神谷委員（福祉医療委員会委員長）、中野委員（愛知県市長会理事）、中村委員（愛知医科大学医学部寄附講座教授）

【事務局】14名

【傍聴者】2名

【内容】

1 挨拶（愛知県保健医療局長 吉田）

- 当協議会は愛知県の健康づくりを推進する大変重要な会議である。
- 愛知県の健康づくりの根幹をなす「健康日本21あいち新計画」、「愛知県がん対策推進計画」、「愛知県歯科口腔保健基本計画」の三つの計画がいずれも、本年度末までとなり、その改定について御検討いただきたい。
- 「健康日本21あいち新計画」だが、もともとアメリカの「ヘルシーピープル」という、健康づくりだけではなく疾病対策も含めた数値目標を持った、大変立派な計画があり、その日本版として策定されたものが、健康日本21であり、国、都道府県、市町村一体となって取り組んでいるものである。
- 愛知県の場合は、健康日本21を作る前に「あいち健康づくりプラン」という計画があった。「あいち健康づくりプラン」では、ヘルスプロモーションの考えを取り入れて、計画を作っており、それを健康日本21の一期目と組み合わせ、愛知県版の健康日本21

を策定した。

- がん対策推進計画及び歯科口腔保健基本計画についても、国のガイドラインだけではなく、関係者の皆様と協議し、愛知県の独自性のある計画とした。
- 今年度はそれぞれの計画の最終年度になるので、最終評価とあわせて、次期の計画を更に良いものにしていきたい。限られた時間ではあるが、忌憚のない御意見をいただきたい。

2 議題

(1) 健康づくりに係る3計画の次期計画策定について

ア 「健康日本21あいち新計画」の次期計画策定について

- 国の方針でライフコースアプローチというのが、次期計画で導入されるとのことである。健康保険等の保険者の立場からすると、人の一生の間には、いろいろな保険者が関わっているが、なかなか制度間の連携が十分にできていない。地域・職域保健の連携がこれからますます必要になってくると思う。
- 「次期計画」の目標指標の整理表(案)で、「がん検診受診率の向上」、或いは「市町村におけるがん検診の推進」とあるが従来の内容とほとんど変わっていない。こういった中に、オール愛知として一緒になって取り組んでいくということを、なにか表現できないか。市町村国保による検診のイメージだけではなく、みんな一緒になって取り組んでいくという表現になるとよい。

→ (事務局)

御意見を踏まえ、検討する。

- 職域と地域で連携しながら推進していくことについて、歯科分野でも非常に重要な視点だと思っており、今後のワーキングでも検討していきたい。
- 国の第三次計画は、今まで一次予防として、生活習慣の改善や行動変容を強く取り組んできたにもかかわらずなかなか成果が伸びず、0次予防という自然に健康になれる環境整備や、誰もがアクセスできる基盤整備といったところがクローズアップされた計画になっている。保健部局や医療保険者の立場だけで、市民の健康を変えていくことが難しい状況にあり、やはり他部局との連携、例えばスポーツ推進の担当部局であったり、自然に健康になれる環境づくりということであれば、道づくりで建設関係の部局と連携して行ったりなど、部局間連携も非常に重要である。また、企業努力によっていろいろ変わっていけるような社会環境づくりなどの環境整備も内容に盛り込めるとよい。

- 若い世代に対する啓発がキーワードであると感じる。例えば30年ぐらい前だと、心筋梗塞で来院する患者さんというのは大体ヘビースモーカーであった。今も心筋梗塞の発症率自体は全然変わっていない。最近、たばこは吸わないけど運動不足と食べ過ぎでメタボになって、血管が詰まって来院するという人が50歳代で出てきている。40歳代前半から50歳前ぐらいで高血圧の方もかなり増えており、そういう方の多くは食べ過ぎ、運動不足となっている。特定検診によって、メタボという言葉が普及したが、どうやったらメタボを防げるのか、その正しい知識を出来るだけ20歳代30歳代のうちに伝えて、出来れば50歳代まで病気にせず何とか乗り切っていただくことが、今後の大きな目標だと考えており、こうしたことで60歳代、70歳代もうまく過ごしていけるのではないかと。

イ 「第4期愛知県がん対策推進計画」の策定について
特に意見なし

ウ 「愛知県歯科口腔保健基本計画」の次期計画策定について

- 歯科の検診、指標、全ての項目がほぼ改善傾向ということだが、歯周病に関しては患者が増えてきているため、そこにターゲットを当てるべきである。
- 国の来年度予算の概算要求に、20歳代、30歳代の歯科検診について示されている。まだ予算が最終的につくかどうかかわからないが、国も生涯を通じた歯科検診の充実が必要と考えており、これまでなかった20歳代、30歳代の歯周病検診が必要である。愛知県下においてまだまだ20歳代、30歳代からの歯周病検診が進んでいない地区があるので、県からしっかりアプローチしていただけるとありがたい。
- 高齢者施設におけるいわゆる口腔管理について取組がまだまだ低い。これを高めることによって、誤嚥性肺炎予防にも繋がると思うので、非常に重要なポイントである。
- 資料3-3の3ページの学齢期の指標の下の四つは、学校の協力が必要な部分である。市町村においてもフッ化物洗口の実施校を増やす取組を推進しているが、教育現場は忙しい。教育の中で歯科保健を推進していくことは、時間的にも厳しく、またコロナの感染対策を考慮すると、構造上の問題もあり、なかなか保健部局の努力だけではできないところもあるというのが現状である。例えば県の教育委員会などへ、取組を一緒に進めるための意識向上に関して、働きかけをお願いしたい。

→ (事務局)

フッ化物洗口の実施率は、順調に伸びてきたが、コロナの流行により一気に数字が落ち込んでしまった。一方で学校現場が忙しいということも指摘をいただいているため、御

理解いただきながら進めていきたい。県教育委員会の代表にも歯科口腔保健対策部会の委員を依頼しており、働きかけをする場合は県教育委員会と相談しながら進めているので、今後も継続していきたい。

- 高齢期のオーラルフレイル対策では、早期発見や早期対応が大変重要であり、今後の課題として県の歯科医師会も積極的に進めていると思う。資料3-3以降では、オーラルフレイルという言葉、或いはそれに対する早期発見、早期対応というのは少しわかりづらいと感じる。愛知県においては、もっと積極的に表現して推進するような項目があってもいいのではないか。

→ (事務局)

次期計画にオーラルフレイルという言葉を入れていきたいと考えている。新規指標の例に「オーラルフレイルを知っている者の割合の増加」を挙げている。オーラルフレイルという言葉の認知度をもっと高めていきたいと思い、現在、オーラルフレイルの認知度が1割にも満たない中で、早期発見、予防につなげていくという観点から、計画の中にオーラルフレイルという言葉を入れることによって、県民に啓発していきたいと考えている。